

「AKBの人気者が選抜から落ちてしまったら・・・」

—教育実習「現代社会」の研究授業—

高崎健康福祉大学健康福祉学部 4年 濱田美奈

生徒の一言でリラックス

チャイムが鳴る5分前。教室の後ろに並ぶ椅子を見て生徒がざわざわとしていた。私は見かねて声をかける。「たくさん先生がくると緊張する？」すると生徒は笑顔で首を振りながら「緊張しているのは濱田先生でしょ！」と言った。その通りだ。現代社会の研究授業、教育実習の総まとめ。隠しているつもりだったが生徒にはばれているらしい。生徒のその一言にリラックスして笑ってしまった。

今日は、単元「現代に生きる青年」のうち、「心の仕組みと自己形成」について学ぶ。

まずは前回の復習から始めた。1年生は皆元気で素直だ。そのおかげで毎回スムーズに授業は進んでいた。普段は元気すぎて困ってしまうほどだが、今日は他の先生方を意識してか、思いのほか反応が薄い。いつものように積極的に発言してもらえないと色々困ってしまう。「いつもはたくさん意見が出るのになあ。どうしたのかなあ。」空気を和らげたくてそう言うと案の定、生徒は反応してくれた。そこからは一番前の席の男の子がしょうがないな、といった感じでリードしてくれた。一人発言者が出ると次々と答えは出る。集団の原理は面白い。

今回の授業の大きな柱は二つ、**マズローの欲求階層説**と**フロイトの防衛機制**だ。今まで無意識で行っていたことに名前があって理論化されていることを生徒は初めて知る。非常に興味を持ちやすい内容だ。具体例を多く用いることで自分達の日常に身近なテーマとして青年期をとらえて欲しかった。

マズローの欲求階層説

そこでマズローの欲求階層説について、更に理解を深めるために自分たちの欲求を自由に書いてもらい、欲求階層のどれに当てはまるか考える時間を設けた。

机間巡視をすると皆一生懸命に記入していた。そして、旅行に行きたい、大会で勝ちたいなど高校生らしい欲求の中に少し変わった珍解答があった。「たくさん眠りたい」これだけでは至って普通の解答なのだが、なんとこれを自己実現の欲求に当てはめていたのだ。思わず声をかける。「これは…睡眠だからもっと下位の欲求かもしれないよ」。しかし、男子生徒は動じなかった。「いや、僕は眠るのが生きがいなんです」。のび太君のような発想は面白いとは思ったが、眠いから眠るのであって生きがいとは言い難い。その旨を説明すると分かってくれたようで生理的欲求に書き換えていた。授業では予想を上回る回答が多くて対応に困るが同時に楽しかった。



フロイトの防衛機制…

…悩んだ設問が大うけ

フロイトの防衛機制についてはそれぞれを理解し実際に自分達の行動に置き換えて考える時間を設けたかった。そこでグループワークを行うことにしたのだが、設問設定には非常に悩んだ。生徒達が自由に考えられて同時に答えやすいテーマが欲しかった。そこで思いついたのが以下の設問だ。

「あなたはAKBで毎回選抜入りする人気者です。しかし、今回の総選挙で順位を大幅に落とし選抜からも落ちてしまいました。さて、その後のインタビューでどのように答えるか、防衛機制を一つ挙げて考えてみましょう！」

丁度直前の週末にアイドルグループの人気投票が行われていてそれをヒントに思いついた。生徒に関心をもって欲しい一心で考えついたこの設問は生徒に大うけだった。グループワークを行うとまたもや面白い回答が多く出てくる。

◎**合理化**→自分のファンは金欠で投票権を購入できなかったから。

◎**抑圧**→インタビューを受けずに帰宅してそのままアイドル引退。

◎**合理化**→リーダーが卒業なので気を遣って譲ってあげた。

◎**合理化**→スタイリストがしたメイクが下手だったせい。

◎**反動形成**→本当は悔しいのに笑顔で答える。

◎**昇華**→AKBをやめてボクサーになって成功した。

投影や昇華について誤って理解している生徒も多く、訂正したり丁寧にしているとあっという間に予定時間を過ぎてしまった。

グループワークでの意見交換を大事に

今回の授業の最大の課題は時間内に終わらせることであった。広い範囲を50分にまとめ、最後にグループワークを行うには前半いかに早く進めるかが勝負だ。生徒の反応は非常に

良い。授業はスムーズに進んだが生徒とのやり取りを楽しみすぎてしまった。そして最後の最後、グループワークを始める時、私は確信していた。これは時間内に全て終わらない。机間巡視をしながら今回はグループワークによって生徒が意見を交換できることを重視しようと、優先順位を判断した。これも指導案で目標を明確化し理解していた成果である。前述した通り生徒の積極性のおかげもありグループワークでは良い意見が多く出た。グループごとに意見を発表し共有したところで終わりのチャイムが鳴った。

防衛機制を理解することで今後自分を守りすぎるというデメリットを回避してほしい。青年期には自己形成から逃げないでほしい、という今回一番伝えなかったメッセージだけ伝える。終わりの号令を行い生徒が席を立つと、スーツに隠れた自分の背中が汗でびしょりだったことに初めて気付いた。こうして私の研究授業は無事に終わったのである。

授業は生徒の反応次第…

…はまってしまいそう

生徒の反応次第で授業の流れは大きく変わる。初めての研究授業は指導教諭と練りに練った思い入れのある授業だ。それに生徒が応えて一生懸命に作業に取り組んでくれたのが非常に嬉しかった。思わぬ回答にどう返したらいいのか困るシーンもあったが、臨機応変が必要な活気のある授業にははまってしまいそう。これは生徒の協力があってからで、授業は自分だけでは行えないということがよく分かった。たった2週間でそれを知ることができたのは私にとって大きな成長だ。本当に充実した実習だった。

今後、もしまた授業をできることになったなら…。反応の良い生徒ばかりではないだろう。そんな強敵にどう挑むか。その前にまず、採用試験という強敵をまずは倒さなくてはならないのである。